

定例教育委員会会議録

(令和8年4月10日開催)

岡谷市教育委員会

定例教育委員会【議事録】（要点筆記）

日 時 令和8年4月10日（金）15時00分～

場 所 市役所6階 605会議室

署名委員 林教育委員、轟教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 令和8年度 岡谷市教育委員会基本方針について【資料No. 1】 (各課)
2. 岡谷市指定文化財の答申について【資料No. 7】 (生涯学習課)
3. 岡谷市史編さん委員会設置要綱一部改正について【資料No. 2】 (生涯学習課)
4. 岡谷市史編集専門委員の選任について（非公開）【資料No. 3】 (生涯学習課)
5. 岡谷市スポーツ推進委員の委嘱について（非公開）【資料No. 4】 (スポーツ振興課)

○ 報 告

1. 令和8年度教育委員会事務局職員定期人事異動について【資料No. 5】 (各課)
2. 令和8年度教育委員会予算について【資料No. 6】 (各課)
3. 国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会第2回常任委員会
・第2回総会について【資料No. 8】 (国スポ・全障スポ推進室)

○ そ の 他

- ・行事等について（各課）
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、
教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒、教育委員 木之下 美貴

事務局（説明員）

教育部長 両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、教育総務課主幹指導主事 村松 晋、
生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、
生涯学習課副参事 長石 成久、教育総務課 教育企画主幹 塩入 康敬、
学校教育主幹 宮坂 洋平、川岸学園整備室主幹 新村 尚志、
生涯学習課統括主幹 秋山 仁志、スポーツ振興課スポーツ振興主幹 井岡 雅彦、
国スポ・全障スポ推進室国スポ・全障スポ推進主幹 安仲 智恵子、
国スポ・全障スポ推進主査 増澤 龍馬、教育総務課 主事 渡辺 凱

<会議録>

○開 会

宮坂教育長

4月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、林教育委員、轟教育委員にお願いします。

○教育長報告

宮坂教育長

春の訪れを感じる時期となった。岡谷市内の学校においては、年度替わりの人事により、湊小学校、上の原小学校、北部中学校、南部中学校の校長4名および教頭4名が交代し、新体制が発足した。

○子どもたちの姿から

・GIGA 端末お披露目会について

3月12日、岡谷田中小学校でGIGA 端末のお披露目会を実施した。市長の視察のもと、児童が端末を円滑に活用する様子が確認された。端末は4月より本格運用を開始しており、学習用ツールとしての活用が期待される。

・岡谷市内小中学校卒業式・入学式

卒業証書授与式および入学式の実施にあたり、関係各位の協力に感謝する。3月17日に小学校、18日には中学校の卒業式を実施し、各校において厳粛かつ円滑に執り行われた。式は児童生徒一人ひとりを大切にされた内容で実施され、学校行事として重要な意義を改めて確認した。なお、不登校児童生徒や感染症等により欠席した者に対しては、校長室等において個別に対応し、全員に卒業証書を授与した。

また、4月6日に入学式を実施し、新入生は落ち着いた様子で入学し、在校生による歓迎のもと新たな学校生活を開始した。

春休み期間中は大きな事故やけがの報告もなく、1学期は順調にスタートしている。今後も児童生徒を中心とした教育の推進を図るとともに、関係機関および地域との連携を深め、活力ある学校づくりと豊かな学びの実現に取り組んでいく。

○生涯学習課から

・カルチャーセンターについて

イルフプラザ3階カルチャーセンター共有スペース等の空調設備改修工事の完了に伴い、使用停止していた3階学習室は4月20日より使用を再開する。これにより、代替施設として設置していたイルフプラザ4階および諏訪湖ハイツの学習スペースは4月19日をもって終了する。

なお、3階研修室等の各部屋については、空調設備改修工事を引き続き9月まで順次実施する予定であり、工事の進捗により一部使用できない部屋が生じる状況が続く。

・美術考古館について

美術考古館は、指定管理者制度移行準備に伴い4月4日まで臨時休館していたが、4月5日より指定管理者である「おかや文化振興事業団」による管理運営を開始した。また、4月26日からは収蔵作品展「岡谷美術協会 働く人々の生活に潤いを」が開催されており、広く鑑賞を呼びかけている。今後は同事業団において、民間のノウハウを活用した調査研究の充実や多彩な事業展開による賑わいの創出など、「文化を核としたまちづくり」の推進および管理運営の効率化が期待されている。

・市史編さん室について

市史編さん事業については、昨年度に市史編さん業務の委託先として株式会社ぎょうせい関東支社を決定した。今年度より本格的に編さん業務を開始

宮坂教育長

している。今後は、市史編さん委員会および専門委員会等の開催状況や事業の進捗状況について、委員に対し適宜報告していく方針である。

○スポーツ振興課から

・「岡谷市スポーツ少年団」の総合開会式について

「岡谷市スポーツ少年団」の総合開会式が4月5日に市民総合体育館で開催された。野球やバレーボールなど5競技9団体から団員・指導者約250名が参加し、団員相互の結束と親交が深められた。式では、子どもたちが主体となって進行を務め、選手宣誓および団員綱領の朗読を通じて今シーズンに向けた意気込みが確認された。今後もスポーツ活動を通じ、子どもたちの健やかな成長が促されることが期待される。

・岡谷市民総合体育館の大規模改修工事について

市民総合体育館の大規模改修工事については、昨年度に西体育館側の工事が完了し、3月より供用を再開している。今年度は東体育館の工事に着手しており、工期は9月までを予定している。引き続き、安全を最優先に工事を進める方針である。

また、市営庭球場の人工芝コートにおける漏水に伴う復旧工事については、4月3日に一部工事が竣工し、4月4日から6面すべての利用を再開した。安全が確保されたことから、翌11日に予定されているテニス大会についても予定通り開催できる見込みである。

○議 題

1. 令和8年度 岡谷市教育委員会基本方針について

<令和8年度 岡谷市教育委員会基本方針について、事務局より No.1 に基づき説明>

太田教育長 職務代理者

教育 ICT を活用した教育 DX の推進については、端末更新などハード面の整備が進められていることは評価する一方で、教員間で ICT 活用の習熟度に差があり、十分に使い切れていない状況もあることから、DX 推進に当たってはソフト面の支援も重要ではないかと考える。教育委員会としてはハード整備に加え、教員への支援や活用促進に向けた具体的な取組をどのように進めているのか、また今後その方向性として何らかの動きがあるのかを確認したい。

事務局（荻原）

今年度から学習用端末として iPad を導入しており、各家庭への持ち帰りを含め、積極的な活用を通じて児童生徒が端末の使用方法に習熟できるようにする方針である。

事務局（村松）

また、教員の活用促進については、iPad の活用に加え、生成 AI の活用にも取り組んでいる。毎週水曜日に全教職員へ向けて、生成 AI の具体的な活用例やプロンプト等を示した情報を配信し、実践的な活用促進を図っている。さらに、iPad の操作方法や情報リテラシーに関する講習会を各学校で年数回実施する予定であり、教員の ICT 活用能力の向上に向けた支援を進めている。

太田教育長 職務代理者

地域とともにある学校づくりの推進、特にコミュニティスクールについては、各学校において取組状況や体制整備の進捗に差が見られるのかを確認したい。その上で、国の方針に基づき体制整備を進めている段階からさらに一歩進み、より実効性のあるコミュニティスクールとするために、教育委員会として各学校への具体的な支援や一定の到達目標の設定など、推進に向けた取組をどのように考えているのかをお聞きしたい。

事務局（荻原）

岡谷版コミュニティスクールの推進については、学校運営協議会の取組を基盤としながら進めているところである。今年度からはトコトン事業の関係

で派遣された教員により、各学校へ出向いて岡谷版コミュニティスクールの趣旨や取組内容について説明を行っている。こうした取組を通じて、各学校における理解と取組を徐々に進展させていきたい。

太田教育長 職務代理者

私も、なかよしプログラム担当としてコミュニティスクールに参加しているが、岡谷田中小学校のコミュニティスクールについては、比較的安定的に活動が継続されている。一方で、長年にわたり同様の課題が繰り返し挙げられている状況がある。そのため、全体としての体制整備を進めることに加え、各学校ごとの課題をより具体的に共有し、関係者間で協議しながら改善策を講じていくことが必要である。今後は、そうした個別課題への対応を含め、岡谷版コミュニティスクールの取組を一層実効性のあるものへと段階的に進めていきたい。

藤森教育委員

学校教育の5つの重点のうち2つ目に「ふるさと学習」の推進と「地域に開かれた学校づくり」が位置づけられている。地域に開かれた学校づくりではコミュニティスクールに関する議論がある一方、ふるさと学習の中心として岡谷スタンダードカリキュラムの実践があると思われる。同カリキュラムは前・岩本教育長の頃に導入され現在まで継続しているが、近年の定例教育委員会では実践状況や内容の更新についての情報共有が少ないため、現状の取組内容や年次的な改善、特徴的な実践事例について教えていただきたい。

事務局（村松）

岡谷スタンダードカリキュラムは、学校ごとに画一的に実施内容が決められているものではなく、「人・もの・こと」といった地域に関わる学びを、各学校の担任が工夫して進めているものであり、各校がそれぞれの実態に応じて取り組みを行っている。例えば昨年度の川岸小学校では、地域の人を招いた児童の発表や、キッチンカーを活用して地域の産品を販売する活動などが実施された。今後は、こうした各校の実践事例についても適宜共有していきたいと考えている。

宮坂教育長

岡谷スタンダードカリキュラムの取組については今後も大切にしていける必要がある。各校に対しては、村松先生から年度ごとの重点や新たに取り組む内容を示し、実践の充実や活動内容の拡充を促していくことも行われている。近年は蚕学習が再び広がりを見せ、中学校においても蚕の飼育などの学習が始まっている。こうした動きも含めて実践内容を改めて整理し、情報発信をしていきたい。

事務局（両角）

岡谷スタンダードカリキュラムは、平成28年の岡谷小学校統合を契機に、魅力と活力ある学校づくりの一環として始まったものである。岡谷のものづくりや製糸の歴史、諏訪湖の自然など地域資源を学習素材として活用し、社会科や各教科の中に岡谷の要素を取り入れ、日常的に学べる仕組みとして構築された。着任した教職員が活用できるよう整理され、各校で地域にちなんだ学習が実践されている。例えば諏訪湖の環境美化に関する児童のまとめなど、成果も見られる。内容は一定の普遍性を持ちつつも時代に応じて調整されており、予算規模に基づく教材整備も行われている。今後も伝統を継承しつつ、時期を見て情報共有や説明の機会を設けていく方針である。

林教育委員

幼保小中の学校間連携については、単に情報交換を行うだけでなく、子どもの発達段階の接続を滑らかにすることを目的として継続的に取り組まれているものと考えているが、具体的に指導方法や支援体制の改善をどのように反映しているのか。

事務局（荻原）

多様な学びを保障する不登校支援の充実については、今年度、県からの要望も踏まえ、校内教育支援センターの拡充を進める方針である。岡谷市にお

いては不登校児童生徒が一定数存在していることから、一人ひとりの状況に応じた対応ができる体制整備を進めていく。

事務局（村松） 幼保小中連携の取組として、今年度新たに入学期のスタートカリキュラム研修会を実施した。新任の小学校1年生担任教員全員が参加し、成田保育園の園長から保育園での生活や学びの実践について話を聞くとともに、1年生の指導に関する情報交換を行った。保育園での遊びを通した学びを小学校の学習につなげていくことの重要性が共有され、参加した教員にとっても幼児期の経験を踏まえた指導の理解が深まる機会となった。

林教育委員 子どもにとって進学時の段差が少なく、円滑に次の学びへ移行できる取組であり、今後も継続が望まれる。また、新たに小学校へ着任した教職員を含め、取組内容をしっかりと共有することが重要である。子どもの成長の可視化や学力保障の充実に向けて、引き続き連携してほしい。

轟教育委員 学校教育の重点項目については、いずれも重要であり方向性としては賛同していききたい。その一方で、新規の取組や実践が増えることで現場の負担増加への懸念が示されており、何を増やすかだけでなく何を減らすかという視点も必要である。優先順位を可視化することで実行性を高めるとともに、教職員の業務改善にもつながる可能性がある。

その中で、生涯学習課の「知る暮（シルク）らしおかや」の講座は新規事業として開始されて取組が2年目に入ることだったが、1年間の利用実績や運用状況について、可能な範囲で教えていただきたい。

事務局（三澤） 昨年度は3回の講座を実施したが、最初の2回は参加者が十分に集まらず課題があった。そのため内容の見直しを行い、3回目にはシルクファクトの見学など岡谷市の地域資源を活用した内容を取り入れたところ、参加者がやや増加する傾向が見られた。この結果を踏まえ、今年度は講義形式に加えて市内施設の見学など体験的要素を取り入れ、「聞くだけ」ではなく実際に地域を知る機会を増やす方向で工夫していく方針である。

轟教育委員 生涯学習の領域は非常に広く、多様で充実した取組が行われている点は評価できる一方で、参加者が固定化しやすい傾向については課題になると考える。特に初めて参加する人や多忙な人にとって参加のハードルが高くなりがちなため、より参加しやすい仕組みづくりや、入口をわかりやすくする工夫をすることで、より幅広い層が関わることができるようにしてほしい。

太田教育長職務代理者 生涯学習の指定管理については、移行により市の関与が後退したように受け取られる懸念がある。特に美術考古館の指定管理導入時の検討過程でも、市民のための施設としての目的が十分に果たされるのかという点に不安の声があった。そのため、指定管理者の力を活かしつつも、市として責任を持って関与し、課題が生じた場合には協働して解決するなど、より良い協力関係を構築していくことが重要であると考えます。

また、子どもの主体性や協調性を育む取組としてリーダーズクラブの活動が紹介され、その意義は非常に大きいものの、参加人数の減少という課題もある。そのうえで、部活動の地域展開の流れと関連づけ、リーダーズクラブの活動を新たな地域連携型の活動として位置づけることができれば、従来にない部活動の可能性や学びの機会の拡大につながるのではないかと考える。

事務局（三澤） 美術考古館の指定管理については、市が関与を手放したということではなく、毎月担当者会議を設け、課題や運営方針について共通認識のもとで連携しながら進めているものであり、芸術・美術・文化は重要分野であるため、市としても引き続き積極的に関与していく。また、文化財部門が生涯学習課

から文化振興事業団へ移ったことに伴い、学芸員など専門人材との連携を強化し、民間の力も活用しながら展示内容の充実を図っていく方針である。

リーダーズクラブについては、少人数ながらも1年間を通じて参加者の成長が見られ、OB・OGの支援も活動を支えている。人数は依然として少ないものの徐々に増加しており、活動の充実に向けて教育委員さんの意見も参考にさせていただき、引き続き取組を強化していく。

太田教育長職務代理者

今、学芸員さんは何人なのか。

事務局（三澤）

現在、1人増えて2人いる状況である。

木之下教育委員

新学期の開始にあたり、子どもの人数減少に伴い、同じ園から進学する仲間が少なくなることで不安を抱える児童がいるという実態がある。特に幼稚園や保育園から小学校へ進む際に、知っている友達が少ない環境に置かれることは大きな心理的負担となり得る。そのため、幼保小の連携においては、これまで以上に子ども同士のつながりを意識した取組や、入学前後の不安軽減に配慮した支援の充実が求められる。特に少人数で進学するケースにも目を向け、安心して学校生活をスタートできるような連携の強化が望まれる。

太田教育長職務代理者

地域で活動している社会人のスポーツ団体と子どもたちを結びつける発想は、部活動の地域展開の一つの方向性として十分に考えられる。競技志向の強い生徒だけでなく、楽しみながら継続したい生徒の受け皿としても機能できる。特に、土日などに地域のクラブへ参加する形であれば、無理のない関わり方が可能となり、異年齢交流を通じた社会性の育成や地域とのつながりの強化にもつながる。また、既存の社会体育の枠組みを活かすことで、新たな受け皿をゼロから整備する負担を軽減できる可能性もある。安全管理や指導体制、責任の所在、競技団体との関係整理など制度面の検討は不可欠であるが、こうした課題を整理できれば、岡谷市独自の特色ある地域展開モデルとして発展する可能性がある。

事務局（味澤）

地域のスポーツ活動が活発に行われている実態を踏まえ、部活動の地域展開についても、既存の団体活動との連携を視野に入れて検討している状況である。現在はスポーツ協会や各競技団体との協議の場を設け、教育総務課とも連携しながら方向性を探っている段階である。多様な団体活動が既に存在する中で、制度面や条件整備の課題もあり、直ちに具体化することは容易ではないが、既存の地域資源を活かしながら関連性を持たせていくことは重要な視点である。

轟教育委員

信州やまなみ国スポに向けた準備期間に入らる中で、スケート施設の利用への影響は特にないかお聞きしたい。特に、これまで実施されてきた各種大会やイベント、国際スケートセンターでの行事、さらには学校のスケート教室といった教育活動が、今年度も従来通り支障なく実施できるのかを教えてください。

事務局（味澤）

信州やまなみ国スポに向け、やまびこアイスアリーナは今年度から改修工事に入る予定である。工事はやまびこスケートの森と綿密に調整しながら進められ、今年度については競技やイベントへの影響は生じない見込みとなっている。今後についても、既存の利用団体への影響を最小限に抑えるよう配慮しながら工事計画を進めていく方針である。

宮坂教育長

令和8年度 岡谷市教育委員会基本方針について、教育委員会として承認したいがよろしいか。

－異議なし－

2. 岡谷市指定文化財の答申について

<岡谷市指定文化財の答申について、事務局より No. 7 に基づき説明>

太田教育長職務代理者 指定文化財について、市民の方が実物を目にする機会が設けられるのかをお聞きしたい。

事務局（秋山） 指定文化財については、所有者である蚕糸博物館と協議を重ねたうえで進められており、現在外部に貸し出されている資料についても、今後は里帰り展示などの形で公開が検討されている。

太田教育長職務代理者 全部で約 2750 点あるということで、残りの約 2730 点は、市民の方が見ることは可能なのか。

事務局（秋山） 約 2750 点のうち約 2730 点については、蚕糸博物館で保管されている。これらは由来や製作年代、使用者などの情報が十分に確認できないものも多く、現状では展示する資料として整理しきれていない側面がある。ただし、リストや目録としての記録は整備されており、保存自体は適切に行われている。今後は研究の進展によって新たな価値が見いだされる可能性もあるため、文化財関係部局と連携しながら整理・検討を進める方針である。

太田教育長職務代理者 文化財指定を契機として、旧市庁舎などを活用し、一定期間でも収蔵資料を広く公開する企画展のような形ができれば、面白いのではないかと考える。約 2750 点に及ぶ資料を一度に全てではなくとも、短期間でも集中的に公開し、市民が直接見る機会を設けることで、文化財の価値や魅力をより実感できる取り組みとなる。

林教育委員 激励文については、背後にある資料があまりにも達筆で判読が難しいため、展示や提示の際には内容を読み取れる形にしてほしい。単に資料を見せるだけでなく、実際に何が書かれているのか、また当時どのような意図や背景があったのかが分かるようにすることで、資料の理解や興味がより深まると考えられる。

事務局（秋山） 文化財保護審議会においても同様の意見が出ており、判読が難しい資料については読み下し文を併記するなど、内容が理解できる形での展示を求められている。そのため、研究の一環という位置づけも踏まえつつ、まずは展示の段階で解読や解説を加え、資料内容が分かる形で公開できるよう対応していく。

宮坂教育長 岡谷市指定文化財の答申について、教育委員会として承認したいがよろしいか。

— 異議なし —

3. 岡谷市史編さん室委員会設置要綱一部改正について

<岡谷市史編さん委員会設置要綱一部改正について、事務局より No. 2 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

宮坂教育長 岡谷市史編さん委員会設置要綱一部改正について、教育委員会として承認したいがよろしいか。

— 異議なし —

4. 岡谷市史編集専門員の選任について（非公開）

5. 岡谷市スポーツ推進委員の委嘱について（非公開）

宮坂教育長 議題4、議題5について、人事に関わる議題のため、非公開とさせていただきます、後ほど議論したいがよろしいか。

－異議なし－

○ 報 告

1. 令和8年教育委員会事務局職員人事異動について

<令和8年度教育委員会事務局職員定期人事異動について、事務局より No.5 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

2. 令和8年教育委員会予算について

<令和8年度教育委員会予算について、事務局より No.6 に基づき説明>

太田教育長職務代理者 資料No.6において、中学校費が約800万円減少している点について、その要因を確認したい。生徒数減少などの影響による自然減なのか、あるいは事業内容の見直し等による特別な変化があったのか、例年との差異の背景について教えていただきたい。

事務局（荻原） 中学校費の約800万円の減額については、教職員用の教科書および指導書に係る予算を今年度は計上しなかったことによるものである。

3. 国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会第2回常任委員会・第2回総会について

<国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会第2回常任委員会・第2回総会について、事務局より No.8 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

・その他

・次回定例教育委員会日程

令和8年5月8日（金）午前9時30分から市役所2階202会議室を予定

16時25分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 8 年 5 月 8 日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

林 慎太郎

署 名 委 員

轟 美緒

調 製 職 員

渡辺 凱